日本YMCA同盟

THE YMCA

The Young Men's Christian Association News

6

No.807 2021

2021年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日　第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003　東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640　Fax 03-5367-6641
URL：https://www.ymcajapan.org/
発行人／田口 努　編集人／横山 由利亜

YMCAユースと視察した「おひるねみかんODAWARA発電所」にて
小田原かなごてファーム代表の小山田大和さんと

OPINION

コンセントの向こうの発電所に、想いを巡らせたことはありますか？

ソーシャル・エネルギー・カンパニー みんな電力株式会社
事業本部 マネージャー　間内 賢

深刻になる自然災害。個人にも法人にも、気候変動に対するアクションが求められる時代へと変わってきています。気候変動を引き起こす地球温暖化の主要な原因は、化石燃料などを燃焼して発生するCO2だと言われています。この課題解決の鍵となる再生可能エネルギーの推進に、みんな電力は取り組んでいます。

みんな電力は日本で唯一、「顔の見える電力™」というサービスを手掛けています。日本全国、北は青森から南は鹿児島まで、現在は150くらいの発電所と契約をしています。ウィンドファームと言われる大規模な風車が20基以上あるような風力発電所から、農家が個人あるいは何人かで出資して設置し非営利で運営している市民型の太陽光発電など、すべて再生可能エネルギーの発電所です。そのような電気を調達して、お客様に販売しています。

電気というのは、すごく大きなポテンシャルがあります。電力市場は18兆円と言われていて、その18兆円のお金がどこに流れるかはとても大事です。例えば、石炭・石油火力の電気を買えば、必ずそれは国外に逃げてしまうし、原子力でもウラン燃料を海外から買っています。でも、再生可能エネルギーとは基本的にすべて国産のエネルギーですから、皆さんが再エネの電気を選ぶことで、18兆円のお金が国内で還流するわけです。しかも再生可能エネルギーの発電所はもともと地方に多いので、そのお金が地方に流れることによって、日本が抱える過疎や地方の活性化といった課題解決にもつながるのです。

例えば、農家さんが発電事業をやっているところだと、太陽光発電の下で作物を育てる、エネルギーと農産物の二毛作をしています。それによって、日本のもう一つの課題である食料自給率を上げることにもつながります。（写真はYMCAユースと視察した小田原市のソーラーシェアリング）

つまり、お金がどこに流れるかがすごく大事で、普段皆さんが払う電気代の5千円あるいは1万円をどこに払うか、何を選ぶかがとてもインパクトのあることなのです。ご家庭でのCO2排出量の半分が電気由来ですから、再生可能エネルギー電気を選ぶという、本当に簡単なことによって、実は気候変動という大きな問題に自分も寄与できるということに気づいていただきたいのです。電気を切り替えること、電気を選ぶことって、簡単にできることだと思いませんか。どれだけ大きな社会の問題であっても、自分のちょっとした行動がつながっていくことを見せることが、やはりとても大事ではないでしょうか。

横浜、埼玉、東京、大阪YMCAの電力が続々、再エネ由来に

全国のYMCAでも、東山荘、横浜、埼玉、東京、大阪において、原発や石炭燃料によるエネルギーからの転換を具体的に示す活動の一環として、自然エネルギーへの転換がすすめられています。東日本大震災のときの「コンセントの向こうに福島が見えるか」という思いや、記録的な集中豪災が各地で広がる水害の背景にある地球温暖化を止めるたいという願い。誰ひとり取り残されることなく、未来の子どもたちが安心して地球で暮らし続けることができるように、SDGsの達成に向けた活動に取り組んでいきます。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。https://www.ymcajapan.org

地域の災害支援拠点として

新しい熊本YMCA本館オープン

2021年5月、熊本YMCA本館がオープンしました。

2016年4月に発生した熊本地震は、改めて安全を担保する責任を考える機会となりました。地域に生きるYMCAとして、新しい本館は建物の構造を強化し、さらに災害時に地域の支援拠点となるようさまざまな設備を整えました。井戸、マンホールトイレ、かまどスツール、防災収納ベンチ、太陽光パネル、自家発電設備、防災備蓄倉庫を備え、地域の方々の一時的な避難所としての活用を想定しており、100名程度を収容可能です。

さらに1階から3階の空調、照明、コンセントは自家発電で賄うことができ、トイレも地下水を利用するように設計されています。万が一の時にでも、避難者が安心して過ごすことができるよう配慮しました。

2021年4月22日には熊本市と「災害時の避難場所・施設利用に関する協定」を締結しました。熊本YMCAは熊本地震の際に益城町と御船町で避難所を運営した経験があるため、行政からはハード面だけではなくソフト面でも大きな期待が寄せられています。熊本YMCA本館は安心安全な環境のもと、地域に愛されるYMCAを目指して新たな歩みを進めていきます。

熊本YMCA　熊本 哲朗

新たな施設では専門学校、日本語学校、ランゲージスクールなどグローバルな人材を育成できる教育環境を整えています。一人ひとりのニーズに合わせたサポートを行い、障がいのある子どもたちの居場所を提供するほか、キャンプ、ヒップホップなどを通して、すべての子どもが笑顔で活動できる場となります。シニア世代のための健康プログラムも提供し、地域に開かれたYMCAを目指します。

1 地域住民の憩いの場「みんなの井戸」
2 衛生的で安心「マンホールトイレ」
3 ベンチが調理器に大変身!「かまどスツール」
4 CO2削減に貢献「太陽光パネル」

熊本市と「災害時の避難場所・施設利用に関する協定」を締結。災害時、地域の方々の支援拠点となることが期待されています。

キャンプを通して「SDGsを考える」とは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私は、現在大阪YMCAで取り組んでいる「SDGsキャンププロジェクト」の推進を通して、改めてYMCAキャンプの魅力や意義の整理ができていると考えています。例えば、キャンプの一場面にあるビーチクリーン活動は、漂着ゴミを拾い海岸をきれいにすることだけが目的ではありません。このゴミはどこから来たのか、もし拾わなかったらどうなっていくのか。海のゴミは自分には関係のないことなのか、街で生活する自分が貢献できることは何なのか。漂着ゴミ拾いから見えてきた世界や自然への影響を考える時間を持ち、自分ができることを決めて実践することは、物事を自分事として捉え、自身の行動変容を導き出すきっかけとなります。

このように、子どもたちがキャンプを通してSDGsのことを考えることは、物事を見たり考えたりするときに自分事として考えるフィルターになるのではないでしょうか。だからこそこれからのYMCAキャンプが、「自分と相手」や「自分と環境」へのつながりを子どもたち自身が見つけて、新しいアクションを起こすことができる人材を育む機会になると考えています。

大阪YMCA　菅田 斉

2021年2月21日に開催いたしましたオンラインセミナー「海洋教育とSDGsキャンプ」より、『SDGsキャンプの持つ可能性』の動画配信のご案内です。ぜひ、ご視聴ください。
https://youtu.be/ZuCPt8djeSA

豆づくりから始まった食育活動

食育コンテストにて厚生労働大臣賞を受賞！

YMCAオベリン保育園が行うみそづくりや大豆栽培、大豆農家やみそ製造店との交流活動「豆づくりから始まった食育活動の展開～子どもの一言で繋がって～」が第15回食育コンテスト（NPO法人幼年教育・子育て支援推進機構主催）にて厚生労働大臣賞を受賞しました。子どもたちの興味関心に添った食育活動に取り組もうと栄養士と保育士が共に子どもたちと活動しています。その一つが5年前から行う、近隣農家での大豆の収穫とみそづくりです。

今年は子どもたちの「みそにする大豆を自分たちで育てたい」という言葉から、農家と一緒に無農薬で大豆の栽培に挑戦し11月に収穫することができました。茶色く乾いたさやから大豆を手作業で取り出した子どもたちは、一つのさやに「（大豆が）何個あるの？」と数え、708粒の大豆が入っていたことに喜びました。この日に収穫した550グラムの大豆は給食のごはんに入れて食べ、2月にみそに加工しました。

大豆の葉に虫がついたり、なかなか花が咲かなかったり、分からないことがあると子どもたちは図鑑やインターネットを使い調べました。それでも分からないと保育者や農家の方に聞くなど、疑問に対して真っ直ぐに向き合っていました。これからも子どもの主体性を大切にし、食育を保育の一部分と考え、子どもたちの興味関心に添った食育活動に取り組みます。

横浜YMCA　大嶋 智子　佐藤 優佳